

2月4日(木曜日)
ドル/円

米雇用統計を控えて小動きか

3日(水)の主な推移

NYダウ平均

10270.55ドル
(-26.30ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

3.7047%
(+0.0681%)

NY原油先物

76.98ドル
(-0.25ドル)

チャート: 30分足 3日(水)朝7時 ~ 4日(木)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所:外為どっとコム

①

イランが国産衛星ロケットの打ち上げ実験に成功したという報道を受けてドルが全面的に下落した。また、欧州委員会がギリシャの財政再建計画に肯定的、という報道を受けてユーロがドルに対して強含んだことも、ドル/円でのドル安要因となった。

②

スペインの財政赤字拡大観測やポルトガルとドイツのCDSスプレッド拡大などを受けてユーロ/ドルでユーロ安・ドル高が進む中、ドル/円もドル高で推移。さらに、22時15分に発表された1月ADP全国雇用者数が2万2000人の減少と、市場予想(3万人の減少)よりも強い結果になったことから、ドル/円でのドル高・円安の進行に拍車がかかり、1月21日のオバマショック以来となる91円台乗せとなった。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 90.20-91.50円

昨日はオバマ・ショック以来約2週間ぶりとなる91円台乗せとなった。日足チャートを見ると、20日移動平均線を突破し、テクニカル面でも好転が見えてきた。ただし、米雇用統計を前にして、ドルをどんどん買い進めるようなムードでもない。本日のところは、一大イベント前の手控え感から、節目の91.00円を中心に小幅なレンジ内で推移すると考えられる。

しかし、今晚のイングランド銀行(BOE)理事会が波乱要因になる可能性がある。依然として、資産買い入れ枠は一旦停止になるとみる意見が大勢を占めているものの、足元では英経済指標に悪い結果のものが目立ってきており、買い入れ枠拡大の可能性が次第に意識され始めている。大方の予想通り「買い入れ停止」となればそれほど大きなサプライズとなる公算は小さいものの、もし「買い入れ枠拡大」となれば、急激にポンドが下落し、ドル/円相場に影響を及ぼすこともあり得る。ただ、ドル高と円高、どちらに振れるかは対ポンドでの上昇がどちらがより強いのか、という点に依存するため、ドル/円の反応を予想するのは難しい。イベント前後の方向性には注意したいところだ。

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
2/4(木)	21:00	◎	(英) BOE政策金利発表	0.50%	0.50%
	21:45	○	(ユーロ圏) 欧州中銀金融政策発表	1.00%	1.00%
	22:30	○	(ユーロ圏) トリシェECB総裁会見	—	—
	22:30	○	(米) 1/31までの週の新規失業保険申請件数	47.0万件	45.5万件

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com